

平成26年度(2014年度)宝塚市きずなづくり推進事業結果評価表

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価		
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見	
1	大塚川さくらの会	50,000	<p>「大塚川桜並木道にぼんぼりの設置」</p> <p>実施時期…大塚川桜並木道花の開花時期から約3月28日から4月4日実質8日間 (雨天が多かった為)</p> <p>場所…市道622号線大塚川南町橋から宝塚橋のさくら並木道 桜の開花に合わせてお茶席を設けお花見来場者に抹茶、お菓子のおもてなしを実施 来場者の皆様から、今年のお花見でぼんぼりと短冊がさくらと相まって大変綺麗だと喜ばれ嬉しさと同時に遺り甲斐を感じた。 お茶席、ぼんぼり、短冊及び、お茶のおもてなし等の準備に男子5名、女子25名 今年度のお花見参加人数 約1,400人 高齢者施設 9施設 保育園1園 障害者施設 3施設</p>	<p>1) 地域住民の皆様との交流、市内、外の皆様に宝塚市活性化の取り組みである物、事、場の場所として多くの方々を知っていただくことができた。</p> <p>2) ボランティア活動の推進、参加者の募集</p> <p>3) 市内の高齢者施設、障害者施設の方々がお花見に参加し、喜んでいただくことができた。</p> <p>4) 近隣のリハビリテーションの患者様に置いて、良い環境の下で散策を楽しまれている。</p> <p>5) 花の道対岸には紫陽花広場があり、四季折々に美しい花を咲かせている。また、湧き水が出ているのを発見し、小さな池を造り「魚の湧き水」と命名した。</p> <p>6) 上記の事業により多くの人の流れを生み宝塚市の観光の散策路として生かされる。われわれ会員も日頃努力を重ね整備していきたい。</p>	市民協働推進課	<p>地域のイベントであるお花見の準備を早くから取り掛かり、多くの参加者を得て開催に至った事は、大変意義深いものと考えます。地域の魅力を高め、観光につながる取り組みに期待します。</p>	<p>地域の資源を住民自らが整備し、まちの新たな名所づくりに努める活動は、住民のまちづくりに対する意識を高めると同時に、相互のきずなを深める有意義な活動と考えます。今後とも継続した取り組みとなるよう期待します。</p>
2	仁川高丸自治会	42,500	<p>「きずなイン高丸座」</p> <p>時期…平成26年4月1日から(平成24年7月からの継続実施分)</p> <p>場所…仁川高丸3丁目(高丸地域の中央)</p> <p>実施…毎週・月曜日(9時半～12時)</p> <p>参加者…毎回 15人余り(年間延べ700人)</p> <p>内容…参加料100円(コーヒー・卵・菓子提供)、相談・合唱およびデイスーパーによる健康・福祉 講話・実演、介護予防サービスの現状紹介(ただし月一回)</p> <p>運営者…自治会役員(若干名)、ボランティア(数名)</p>	<p>去年7月から高丸座を運営しているが、利用者の反応は「毎週のティータイムが待ち遠しい、一体感が芽生える、地域での存在感が高まる、気持ちが前向きになる」等の声が多く聞かれている。</p> <p>また、本事業を通じ高丸地域住民の共助意識が高まり、地域住民の一体感の輪の広がりが大いに期待できる。</p> <p>本補助金支援による3年間に亘るきずな事業は一旦リセットし、自立型の持続性のあるきずな事業を検討していきたい。</p>	市民協働推進課	<p>地域の皆さんに親しまれ、多くの人が参加されました。3年間の活動を通じて、地域のきずなづくりにつながった事は、大変意義深いものと考えます。他の地域のモデルとなるよう、今後の活動に期待します。</p>	<p>自治会員有志で始められた活動が、定期的に開催することで、徐々に参加者が増加し、地域住民にとって憩いと交流の場として定着したことを評価します。今後とも継続した取り組みとして、他の地域のモデルとなることを期待します。</p>
3	鶴見台自治会	50,000	<p>鶴見台「終の棲家」作戦</p> <p>① 高齢化と暮らしに関わるアンケート (各戸配布54戸・26/9・回収40戸)</p> <p>② 高齢者の悩みを聴く会 1回 (自治会館、26/8・15名)</p> <p>③ 地域で暮らすための勉強会 3回 (自治会館、26/7・18名、26/9・20名、26/11・29名)</p> <p>④ 終の棲家作戦会議 3回 (自治会館、26/8・18名、26/9・14名、27/1・16名)</p> <p>⑤ 外出支援に関わる先進地視察 1回 (三田市本庄地区、26/9・4名)</p> <p>⑥ 高齢者外出支援の試行 1回 (宝塚阪急とコーナン中山寺、27/2・4名)</p> <p>⑦ 終づくりのための親睦と現地との交流・研修 1回 (岡山県瀬戸内ほか、26/11・29名)</p> <p>⑧ 防災避難訓練と高齢者の所在確認 1回 (団地内、26/11・64名)</p> <p>⑨ 災害発生時のけが人搬送訓練 1回 (自治会館、27/3・33名)</p> <p>⑩ 鶴見台未来委員会(仮称)設置と終の棲家作戦計画(案)策定 (27/3・自治会総会に提案)</p> <p>(内容の一部については別紙の資料に収めている)</p>	<p>西谷に位置する小規模団地の故に、鶴見台の高齢者の誰もが暮らし続けられるかとの不安を抱いている。アンケートと話し合いは、これまで個別に悩んでいたこの思いを住民が共有する機会となった。個別事業は異なるにせよ、この地での高齢者の暮らしは自助努力のみでは不可能で、向こう三軒両隣の助け合いでも困難なことが明らかになったのも大きい。助ける側も助けられる側も高齢化するなか、地域としての老老介護の必要性への認識が芽生えたといえる。</p> <p>とはいえ、その意識を具体的な活動として展開するには、ここに暮らし老若男女が地域への帰属意識のもとに結果する必要がある。それは講師を招聘しての勉強会などで培われつつあるが、学習のみで意識の改革を迫るのは難しい。そこで、楽しみを兼ねた絆づくりツアーとか災害時を想定した高齢者の避難などのしかけを行ったが、これらは体感的に地域の仲間という意識の醸成と向上をもたらせた。この意識を具体的な活動として展開するため、「まごの手本庄」の先進事例を学び、外出支援の試行を行ったが、これらから地域で実践する際の問題点が見えつつある。</p> <p>本事業の効果は短期的に表れるものではない。しかし、農村部に孤立した小団地で暮らし続けるために、「終の棲家作戦計画(案)」の策定にまで漕ぎつけたのは最大の成果であった。</p>	地域福祉課	<p>高齢社会を迎え、独居高齢者や高齢者のみ世帯が増加する中、地域特有の課題を認識し、共有されたことは大きな成果です。また、絆づくりツアーや災害時模擬避難訓練などから、地域の仲間という意識の醸成と向上をもたらせたことは高く評価しています。今後も更なる地域のきずなづくりに取り組んでいただき、より一層安心して老いることのできる地域となれることを期待しています。</p>	<p>繋がりが薄いとされる新興住宅地において、住民自らが「終の棲家作戦計画(案)」を策定したことは、意義のあることだと考えます。今後は、実践に結び付くことを期待します。</p>

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
4	宝塚市第5地区自治会連合会	300,000	<p>「災害時一人も見逃さない、各避難所施設利用計画」</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年4月より東公民館、ふれあい広場、ひらい人権文化センター、雲雀丘会館、にて35回、研修会を開催する。(民生委員、防災防犯部会員、自治会役員、民生協力委員) 自治会連合会、まちづくり協議会、民生児童委員等合同研修会・東公民館 146名参加 地域連携会議 あいわ苑にて計13回開催(自治会連合会会長、まち協会長、民協会長他) 福祉避難所開設マニュアル作成会議 あいわ苑にて10回開催(行政、民生委員、職員) 11月15日、親子防災教室開催 雲雀丘会館にて 親子、高齢者、住民等70名参加 防災学習会3回開催第5地区民生児童委員 延べ120名参加 「活動班員の為のハンドブック」作成会議 ふれあい広場にて 18回開催 防災セミナー9回開催(第6地区民生児童委員協議会定例会、長尾台自治会他自治会5か所) あいわ苑職員研修、防災セミナー 地域防災訓練3回(長尾小、長尾南小、丸橋小) 福祉避難所開設訓練 あいわ苑にて開催 職員、地域住民、行政等130名参加 	<p>丸橋小学校の防災訓練のあり方について様々な意見を頂いてきたが、長尾小、長尾南小と同じく避難所開設訓練を行うことができ、地域の方やPTA役員の皆さんへ丁寧な説明ができた。多くの備品を体育館に治めることができた。また、あちこちから防災セミナー開催の要望を頂き出向くことができ、災害の種類や持ち出し品を共に学び、地域住民に啓発することの大切さをあらためて学んだ。地震や土砂災害だけでなく水害についても学び、今後は県の治水事業、「流す」、「貯める」、「備える」を理解し、住民に啓発する。今後も、多くの組織が連携して点ではなく、線になり、面になり、地域の多くの人々がつながり活発な活動を展開する。</p>	<p>総合防災課</p> <p>自治会、民生委員をはじめ、多くの地域住民と事業所や行政といった多様な組織の連携につながる活動に尽力され、地域防災力の向上に貢献された。また、福祉避難所開設マニュアル作成に向けた取り組みを行うなど、本市における先進的な活動もっており高く評価できる。</p>	<p>地域住民への啓発を始め、多くの組織と連携した活動は、地域防災力の向上に大きく貢献していること高く評価します。また、他の地域へも積極的に出向き、防災セミナーを開催するなど、全体的な活躍が伺えます。今後も先進的な事例として、活発な活動の展開に期待します。</p>
5	西谷自治会連合会	150,000	<p>合併記念イベント「竹の祭典」</p> <p>実施時期 平成27年3月14日 場所 西谷ふれあい夢プラザ 回数 1回 内容 西谷住民の交流と南部市民への広報 参加者 約250人</p>	<p>イベントを行ったことにより、西谷の団結心が高まったように感じられる。また、いろいろな面において、西谷の存在をアピールできた。</p>	<p>商工勤労課</p> <p>多くの方が、合併60周年を機会に、改めて西谷地区の伝統産業に触れていただく機会になったと評価します。市街地の住民にとっても、西谷の伝統産業を知るきっかけになりました。今後も、伝統の竹産業を「竹製品の展示と実作りの実演」をご覧になられたほか、餅つきの賑やかな民謡歌手のステージなども楽しめました。</p>	<p>合併60周年を記念したイベントを通して、西谷地域の伝統産業と歴史を振り返るよい機会になったと評価します。市街地の住民にとっても、西谷の伝統産業を知るきっかけになりました。今後も、伝統の竹産業を「竹製品の展示と実作りの実演」をご覧になられたほか、餅つきの賑やかな民謡歌手のステージなども楽しめました。</p>
6	環学会	350,000	<p>「環境にやさしいまちづくり」</p> <p>1. 勤労市民センター 玄閣周辺のみどりのカーテン作り;5/18 講習会、補え付け。会員5名 市民57名出席。水やり 1人、毎日3回。収穫・試食会 9/4 会員6名 一般市民70名、育成交流会 10/5 会員6名、一般市民 70名 出席</p> <p>2. 市内各所への出前講(全10回) 主な会場: 美座会館、総合福祉センター、コープ宝塚、売布きよしガ丘会館、山本ココセンター。一般市民参加者—タル:290名</p> <p>3. ひよこ保育園でのみどりのトンネルづくり 補え付け:5/19 園児と一緒に補え付け、9/4収穫、試食会での園児によるパフォーマンス実施、拍手喝さいをあげた。</p>	<p>1 例年どおり勤労市民センターの玄閣周辺でゴーヤを育て来館市民に涼しさを与えると同時に一般市民向け講習会、ゴーヤ試食会を実施してそれぞれ70名の市民の方々と交流ができ、これが後の出前講座、各自のゴーヤ作りに非常に貢献した。</p> <p>2 10ヶ所の出前講座を通して290人の一般市民との交流ができ、そのうち150名が実際に自宅でゴーヤ作りを行ってくれた。これは我々がめざした「みどりのカーテンの普及の促進」そのものであり、宝塚市の「環境にやさしいまちづくり」に大いに貢献できたと言える。</p> <p>3 「ひよこ保育園でのみどりのトンネル作り」は、園児らにもの育てる面白さを補え付けただけでは無く、われわれ高齢者にとっても最近感じた事のないインパクトを与えてくれた。特に昼食会、運動会への招待は我々にとってすばらしい経験だった。</p> <p>4. 3年間市の補助金をもらって本事業を進めて来たが、一番大きい成果は何と云っても会員同士および大勢の一般市民との交流による「きずなづくり」が出来たことであろう。今後はこの財産を生かして自前の努力で「みどりのカーテンの普及」を進めていきたい。</p>	<p>環境政策課</p> <p>市も継続して取り組んでいる緑のカーテンは、夏場の節電対策に寄与するとともに、花や緑、昆虫などの生き物を身近に感じる事ができます。同会は平成24年から同事業を推進しており、積極的な活動により、講習会参加者290名のうち150名が取り組まれる状況であり、省エネや節電に対する意識の高まりから、年々緑のカーテンに取り組まれるご家庭が増えてきています。また講習会だけでなく、保育園でも昨年に引き続き緑のカーテンの設置や、日常の管理を通して園児や保育士との交流が図られ、園児にとっても生き物とふれあう楽しさを感じながら、食育について学べたことは貴重な経験となったと考えます。講習会と保育園での開催を通して、幅広い世代間で交流し、きずなを深めていけたものと考えます。</p>	<p>「緑のカーテン事業」が定着し、節電対策に寄与するとともに、地域住民や保育園児との交流を通して楽しい「きずなづくり」ができたことは、大きな成果と考えます。今回で補助金の交付は最終となりますが、補助金が無くなくても、この事業をさらに推進していくべきです。</p>

No	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
7	中山台コミュニティエリア災害対策委員会	500,000	<p>「中山台コミュニティエリア全域における自主防災事業」</p> <p>防災きやらばん ・7月18日、19日、20日 延べ70人参加 中山台コミュニティセンター 3日間連続で、時間帯をかえて、AED訓練・普通救命講習などを実施 大規模避難訓練 12月7日 約1010名参加 中山台コミュニティエリア全域、2小学校・中学校・高校および「ちどり」「アクティブライフ」「コミュニティセンター」を避難箇所と想定して実施 ・26年10月～12月 約5100世帯を対象に避難訓練参加を呼びかける。 要援護者の中には、災害時でも自力での移動が困難なため避難せずにその場にとどまることを希望する者が多い。今年度も要援護者の集約に重点をおいた。 ・27年1月10日 反省会 40人参加</p>	<p>防災きやらばん 7月18日、19日、20日 3日間連続で、時間帯をかえて、AED訓練・普通救命講習などを実施 災害対策委員会の活動を多くの人知ってもらうことができ、避難訓練が根付いてきた。 大規模避難訓練 26年12月7日 ・26年10月～12月 約5100世帯を対象に避難訓練参加を呼びかけ、要援護者の訓練参加も増えた。 要援護者の中には、災害時でも自力での移動が困難なため避難せずにその場にとどまることを希望する者が多い。今年度も要援護者の集約に重点をおいた。 ・反省会 27年1月10日 反省会を通じて人のきずなをつくり、次年度の活動につなぐことができた。</p>	総合防災課	<p>厳密な計画を基に、地域の全住民を巻き込み、各種団体と連携した大規模な防災訓練を実施してこられたことを評価します。増ったノウハウを他の地域にも波及させ、市全体の地域防災力の向上につながることを期待します。</p>
8	宝塚むすこスケッチ会	500,000	<p>「宝塚スケッチ回顧ガイドブック制作・発行事業」</p> <p>市内のスケッチポイントなどを地域別のスケッチ回顧マップおよびガイド・コメント集として取りまとめる。スケッチ活動を補完する情報として休憩・トイレ、立ち寄りポイントなどを追加調査し情報として紹介する。以上をガイドブックとして制作し発刊・配布し、発刊記念フォーラムを開催した。 ①H26年度入選作品グループと地図構成検討作業。4月～5月、述べ10人。 ②休憩・トイレ、立ち寄りポイントなど補完調査。6月～7月、述べ30人。 ③ガイドブック編集、著作作業。7月～10月、述べ30人。 ④ガイドブック印刷作業。10月 ⑤ガイドブック発刊記念フォーラム。11月参加100人。 ⑥市窓口他でガイドブック配布。1000部印刷したが、12月でほぼなくなる(除く庁内留保分)。 ⑦報告書とりまとめ提出。1月</p>	<p>今回の事業について市民他からたいへん高い評価をいただいた。また、開催したフォーラムについても満室に近い約100名の入場者が参加し、90以上の人がガイドブックを高く評価した。 従来の宝塚ブランドだけでなく、市民目線の地域資源紹介や身近な宝塚の魅力紹介につながるだけでなく、宝塚の再発見にもつながり、——市制60周年記念地域の資源・魅力再発見——の目的を達成できた。 さらにこのような事業効果を反映して、教育委員会社会教育課が実施するH27年度市民カレッジの中に新しいコースを新設することが具体化しつつある。(仮称コース名)「宝塚の景観・風景 みどころ探訪コース」これらの活動を通じて市民が誇りを持てるまちづくりや社会活動が発展することが期待できる。</p>	(政策推進課)	<p>市民目線の地域資源紹介や宝塚の魅力紹介、さらに宝塚の再発見につながる、「市制60周年記念事業」としての目的が達成されたものと評価します。地域活性化事業として、今後これらの活動を通じ、市民が誇りを持つ宝塚の魅力発信に期待します。</p>
9	宝塚1万人のラインダンス実行委員会	500,000	<p>「ギネス世界記録に挑戦～TAKARAZUKA1万人のラインダンス～」</p> <p>平成26年11月1日(土)午前10時から、宝塚大劇場前の武庫川河川敷左岸3.3kmにメインステージを、右岸には放送席、観客席を設置して、参加者がエフエム宝塚のラジオ放送を通して5分間のラインダンスを踊った。 これまでのラインダンスのギネス世界記録は、参加者数2,569名とあって、7月20日から参加受付を開始したところ、最終的には5,435名からエントリーいただいた。ダンス曲は宝塚歌劇団の岡田敬二氏の総合演出のもと、「おおたカラツカ」「鉄腕アトム」「スマイルの花咲く境」「ピパ! 宝塚」「宝塚フォーエバー」などなじみの5曲で編成した。 爾来、公開レッスン8回、特別レッスン22回と練習を重ねた。会場整備も4回に渡り、ボランティアを中心に雑草刈りを行うとともに、兵庫県北県民局や陸上自衛隊大久保駐屯地の全面協力による荒神川仮橋の設置など、オール宝塚の力を結集することができたと感謝する。 11月1日当日、早朝からの雨のため参加者は4,563名とやや減ったが、結果としてギネスから4,395名が公式に認定され、世界記録を達成することができた。</p>	<p>参加者は宝塚市内から3,000名、近隣市町村から1,600名、県外からは800名である。特に、県外からは札幌、東京、那覇、さらには東北の被災地からと全国から集まり、当日前後の周辺ホテル、旅館は超満員であった。 宝塚ブランドの力は大きく、6月の記者会見以来、全国から問い合わせが殺到、ホームページのヒット数もこれまで18万件に達している。 特に、11月1日当日は在阪各テレビ局や全国紙の取材が集中、雨にもかかわらずヘリコプター3機、ドローン(無人ヘリ)2機が飛び交うなど大きな関心を集め、全国ネットで大々的に取り上げられるとともに、通信社を通じて全国のほとんどの地方紙に掲載されるなど、宝塚のイメージアップをはかるという大きな成果を上げることができた。 また、同時に開催された「オープンカフェ」では、「宝塚ロケッ」「宝塚すみれシャングリ」など新名物を紹介、人気を博した。また、ラインダンスの後、「宝塚音楽回顧」でコラボすることにより市民参加イベントに新しい可能性が生まれ、宝塚市の活性化に寄与することが出来たと考える。</p>	(政策推進課)	<p>ラインダンスのギネス世界記録への挑戦、近隣市町村に止まらず全国的に大きくマスコミに取り上げられて、宝塚のイメージアップに貢献されました。宝塚のブランド力を改めて認識することが出来ました。多数のボランティアを動員するとともに、関係機関にも協力を求めるなど、事業を管理運営された実行委員会の皆さんの努力が、大きな成果につながったことを高く評価します。</p>

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価		
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見	
10	虹の輪コンサート	496,000	<p>「音楽がなくなぐさなコンサート」</p> <p>少しでも多くの人に参加していただくため、春夏秋冬の4回、宝塚市の東西南北と会場を変えてハンディをもつグループ(*)とプロのミュージシャンとの共演コンサートを実施した。</p> <p>・日時…計4回実施。 ①平成26年4月11日②平成26年7月12日 ③平成26年10月12日④平成27年1月25日</p> <p>・場所…①あいあいパーク②西公民館③阪神競馬場④東公民館</p> <p>・内容…①ジャズハーモニカライブ②馬頭等コンサート ③ジャズライブ④新書きなぐさなコンサート(一絃等とアルパ)</p> <p>・出演団体…①認知症の父と娘*、辻晋哉他②スタジオFC*、スーホ他 ③恵美舞*、クープ・ド・クエル④コスモス21*、須磨寿保存会、エストレリダス</p> <p>・参加者…①130名②120名③300名④100名</p>	<p>・障がい者が一生懸命にダンスや演奏をする姿を見た観客から「ほろりとした」とのコメントをいただいた。舞台上立つ障がい者たちに暗いところは感じられず、正に明るく楽しみながら懸命に演ずる姿が多くの人に感動を与えたと確信している。</p> <p>・普段、本物の音楽に接する機会が少ない障がい者やその家族の方のみでなく、来場者全員に楽しんでもらうことを狙って、クロマティックハーモニカ、馬頭琴(モンゴル楽器)、一絃琴、アルパ(パラグアイ・ハープ)など、珍しい演奏を選び、馬頭琴や一絃琴では、その土地の文化の紹介や歴史をスライドで紹介するなど、交流と文化への興味を持ってもらえた。</p> <p>・障がい者の中にはプロの演奏をバックに踊ったことでの一種の自信を、ミュージシャンには通常と異なった演奏により、音楽が人に与える予想以上に大きな力を感じてもらった。</p> <p>・今回、障がい者のグループの練習を見る機会がかなりあり、そこでの家族の方、指導の先生、障がい者の方々の寄り添いあう姿に感銘を受けたのが私にとっては最大の収穫であった。</p>	(政策推進課)	<p>トリプル周年事業・市民推進会議のメンバーによる事業であり、市民が主体となった音楽があふれるまち宝塚を目指す事業である。なかなか聞く機会のない珍しい楽器を中心にコンサートが構成され、障がい者にも参加いただくなど十分に企画を練られていた。音楽を通じて地域の様々な団体と関係を築かれ、理解しあい、支えあうきずなを育まれた事業であると評価している。</p>	<p>障書のある人とプロのミュージシャンとの交流や、家族や支援者の方々との関わりなど、参加者と観客、双方にとって実りが多い事業だと評価します。また、音楽を通して、文化や歴史を紹介するなど、活動の幅の広がりも伺えます。取り組み自体の意義も大きく、今後も継続されることを期待します。</p>
11	コミュニティひばり	200,000	<p>「市制60周年 雲雀丘地区開発100年まちづくり事業」</p> <p>委員会 6/7,7/5,7/17,7/21,8/23,9/13,10/11,11/15,1/17,2/11 10~20名 於:雲雀丘倶楽部等</p> <p>○事業部会 1)景観形成建築物の保存部会 居住者の集い 7/21 12名 3/21 15名 於:雲雀丘倶楽部 2)街路景観改善部会 8/12 阪急電鉄、雲雀丘学園訪問 3)桜復活植樹部会 6/28 きずきの森視察 6名 4)高齢化へ向けた街づくり デマンド交通事例調査報告10/11</p> <p>○記念事業 案内板作成 ワークショップ開催3/22 16名 於:雲雀丘倶楽部 ○広報活動 1)5月中旬 参加協力要請チラシ配布 3月末 事業計画パンフレット作成 ○研修会 1)5/18阪神間モダニズムがつくった夢の住宅地 講師:中島節子氏 40名 於:雲雀丘倶楽部 2)1/31歴史的建築物の活用・雲雀丘のまちづくり 講師:金野幸雄氏 35名 於:兵庫県女性交流会館 3)3/14 まちづくりの輝きに自治システムの確立を 講師:田中義岳氏 36名 於:雲雀丘倶楽部</p>	<p>2014年6月に「雲雀丘100年浪漫委員会」が発足して9カ月です。毎月1回程度の委員会等で各種事業についての協議を行うとともに、歴史的建築物を活用したまちづくりについて研修を重ね、事業実施に向けて準備を進めています。</p> <p>現段階の具体的な成果は、高岡記念館を所有されている公益財団法人東洋食品研究所が、阪急雲雀丘花屋敷駅西口駅前案内板のリニューアルに賛同され、5月末を目途に宝塚市へ寄贈する運びとなりました。このリニューアル作業には、将来長きに渡って地域の共有財産となるように地域の子どもも参加します。今年度からは雲雀丘100年浪漫委員会活動の趣旨をコミュニティひばりの広報でPRしたり、クテコみやチラシ等で参加を呼び掛け、委員会活動へ積極的に協力される住民の輪を広げ、コミュニティひばり全体の事業にする。</p> <p>2016年 雲雀丘100周年記念式典開催や関連する記念事業の実現と、宝塚市の文化的な財産、地域の歴史文化・景観資産を保持するための新たな仕組みづくりを模索し、今後も魅力的なまちづくりの継続を目指します。</p>	(政策推進課)	<p>雲雀丘地区は平成28年に開発100年を迎える予定であり、本市の歴史、文化の礎を築いてきた地区である。雲雀丘地区には本市の景観形成建築物の大半が位置しており、「住み続けたいまち」としてのイメージを形成している。</p> <p>本事業は、雲雀丘地区に限られた住民を対象とするのではなく、宝塚市の全市民に雲雀丘地区の歴史と景観形成の重要性を再認識する機会とするよう今後も期待する。</p>	<p>雲雀丘のまちづくりの経過と歴史的な建築物との関連など、景観が形成された文化的な背景について、資料の整理や研修会などを実施され、雲雀丘地区のPRにつながったと考えます。住民が率先的に活動を広げていることを評価します。</p>
12	宝塚「生」折りのメッセージ実行委員会	500,000	<p>宝塚「生」折りのメッセージ～市制60周年・アートを発信！</p> <p>・開催日時 平成24年8月19日(日)午後5時～午後9時 ・会場 武庫川・宝塚観光ダム(宝塚橋下流左岸河川敷)周辺 ・内容 17:00 カヌーの試技(宝塚カヌーポークラブ)、会場内キャンドル点灯 屋台営業開始(かき氷、焼きそば、フランクフルト他) 河川敷会場内協賛団体等灯籠・子ども灯籠、光のオブジェ点灯 18:30 オープニング(宝塚市長・実行委員長挨拶) 18:40 宝塚歌劇団OG 79期生絵里 千晶さん宝塚の歌独唱 19:00 小林こどもエイサー隊「沖繩エイサー」 19:00 大野良平氏指導により、みんなで「宝塚市章」点灯 19:20～灯籠流し開始(数回に分けカヌーで牽引) 河川敷会場内協賛団体等灯籠・子ども灯籠、光のオブジェ点灯 21:00 終了宣言 ※8月18日午後3時20分大雨洪水警報発令につき、急遽、翌19日に順延。観客は約4,000人、当日のボランティア約120人で対応した。</p>	<p>・宝塚らしさを大切にしている8日目の開催になり、夏の風物詩としての存在を市内全域に浸透してきたように感じる。また、阪神間からの参加が年々増加の傾向にある。</p> <p>・参加の年齢層が高齢者主体から多世代参加型へと変化がみられる。</p> <p>・周辺商業者のイベントへの理解と期待が年々たかまってきた。</p> <p>・このイベントを通じて河川敷の市民利用が年々たかまってきた。</p> <p>・このイベントを通じて武庫川を挟んだ住民同士が交流する良いきっかけになっている。</p> <p>・「宝のホタル」(LED球)は活用の仕方と斬新な発想で好評を博した。</p>	(政策推進課)	<p>全国的にも認知されている武庫川の「生」を全国に発信する効果的なイベントである。今年度は、大雨等による順延等あったにもかかわらず多くの参加者があり、市内外の認知も年々高まってきており、市の魅力を発信するイベントとして、効果的であると考えている。</p>	<p>年々、全国的に認知度も上がり、宝塚らしい夏の風物詩として定着してきています。参加世代も増え、周辺商業者の理解も深まって、今後は補助金が無くても工夫してイベントを継続されることを期待します。</p>

No.	申込団体名	決定額 (円)	自己評価		評価	
			事業内容	効果	関係課意見	審査会意見
13	一般社団法人 宝塚まち遊び 委員会	500,000	<p>「写真が物語る宝塚の歴史」地域連携事業</p> <p>1. 「第2回清荒神ぶらーり参道フォトコンテスト～宝塚今昔物語～」の開催 募集期間:平成26年11月3日～12日 内容:①清荒神および参道界隈のスナップ写真 ②宝塚の懐かしい写真(昭和以前のもの) 展示会:平成26年11月19日～25日 場所:ギャラリー六軒茶屋 表彰式:平成26年11月24日 場所:ギャラリー六軒茶屋 応募点数:① 42点 ② 5点 参加者数:展示会 約500人 表彰式 約50人</p> <p>2. 旧松本部一般公開～オールドファッション宝塚展～の開催 日時:平成26年11月15日～16日 場所:旧松本部(宝塚市桜が丘3-45) 内容:一般公開に合わせて写真展・コンサートを開催し、館内案内を実施した。 参加人数:約250人</p> <p>3. 「美しく咲いた思い出の宝塚展」広報協力 社会教育課主催のパネル展について、ポスターに情報を掲載して広報に協力した。</p>	<p>1. 清荒神ぶらーり参道フォトコンテストについては、昨年の企画協力に続き、今年度は主催事業として清荒神参道商店会との協働により実施した。昭和以前の懐かしい写真を募集した宝塚今昔物語への応募点数は少なかったものの、歴史を感じさせる清荒神かいわいのフォトコンテストとの同時開催により展示会には多くの参加があった。参加者は、撮影・応募・展示会・表彰式と続く一連のイベントに関わることで、清荒神地域との繋がりを深め、パーティーを通して参加者同士の交流も始まっていると感じた。また、清荒神地域に在住のアーティストにトロフィー制作を依頼し、清澄寺・商店会・地域の出会いと協働の場を創出した。</p> <p>2. 旧松本部の一般公開は、中央図書館の事業として実施されているが、今年度5月の公開時から企画協力を行っている。11月の公開時には、昨年度さすなづき推進事業補助金を受けて実施した「オールドファッション宝塚展」から写真パネルを再活用し、屋外での写真および現代アート作品の展示を行った。併せて地域在住の古楽器(ピオラ・ダガン)奏者によるコンサートと、近代建築としての旧松本部の魅力を紹介する館内ツアーにより、地域資源である文化財を広く市民に紹介することができた。</p> <p>3. 同時開催の市制60周年記念パネル展の広報に協力し、トリプル周年を盛り上げた。</p>	(政策推進課)	<p>清荒神地域の魅力を再発見につながる行事として、清澄寺・商店会・地域住民の協働の場づくりができたこと、旧松本部内行事により地域の文化財を広く市民に紹介できたことを評価します。このような取り組みが継続して展開されることにより、清荒神地域が今後さらに活性化することを期待します。</p>
14	西谷地区まち づくり協議会	500,000	<p>「地域資源の再発見によるまちづくり推進事業」</p> <p>平成26年6月以降(1か月1回) 地域の文化作品の展示 西谷会館 計10回 各200名 平成26年11月 歴史・文化講演会の開催 桑原征平氏講演会 西谷会館 まち協20周年記念式典 平成26年11月 伝統芸能・伝統文化の発表会 楽々宴など 西谷会館 延べ341名 平成26年12月 宝塚市合併記念写真展「懐かしの西谷写真展」西谷会館 延べ300名 写真展開催のための委員会や写真収集作業、キャプション作成などの作業も事業の一環である。 平成27年2月 西谷検定試験(100問)の実施 西谷会館 54名 問題や解説のための資料収集、問題作成なども事業の一環である。 平成27年3月 宝塚市合併記念写真展「懐かしの西谷写真展」市役所市民ホール 西谷自治会連合会主催宝塚市合併60周年記念式典(CD用写真提供) 平成27年2月 西谷の地域資源の解説冊子(検定問題の解説)の刊行 コミュニティだより(まちづくり協議会ニュース)の複製 <事前準備や冊子刊行などのための集会等は含まれていない></p>	<p>地域らしさがあってこそその「まちづくり」という視点から、自然や歴史、行政や生活文化などといった人びとの暮らしの背景、換言すれば地域の実態について、住民が改めて確認する機会となった。このことは、西谷地区が宝塚市の一角を占めるようになって60年、その一員としての発展を担わねばならないという意識を、一人ひとりの住民が自覚する契機を提供する事業であったことを意味する。</p> <p>「芸術作品展」は、住民の文化水準向上に貢献しただけでなく、見学者として地区外からの入込みも増えるという効果をもたらせた。中学校生徒の作品展による学校教育と地域との結びつきもあり、人づくりに貢献するという波及効果もみられた。</p> <p>「西谷検定」は、市議を含む西谷地区外からの参加もあり、市内で初めてのローカルな検定として注目された。終了後も問い合わせが続き、地域の発展のために地域を知る大切さを多数の住民が認識する機会となったほか、地区外に西谷の特性を発信することができた。社会教育あるいは郷土学習としての意味も、成果の一つと考えられる。</p> <p>「懐かしの西谷写真展」は、写真に加えて合併当時の資料類や年表なども展示したこともあって、60年間の地域の変遷を振り返るだけでなく、合併の意味を再確認する機会となった。市役所市民ホールにおける展示を通して、広く南部市民にも西谷地区への理解を得ることができたことも大きな成果であった。</p> <p>「コミュニティだよりの複製」は、西谷地区が宝塚市の構成地域の一つとしての役割を果たしてきた歩みを再確認することになった。西谷の「まちづくり」は、いわゆる宝塚イメージの浸透によるのではなく、その独自性を宝塚らしさのなかでいかにかかすかにあることを思い起こさせたのである。</p>	(政策推進課)	<p>西谷地域は宝塚市の北部に位置する農村部であり、市にとって重要な地域資源である。</p> <p>西谷検定など楽しいイベントも盛り込み、記念式典では多くの参加者があった。本事業は、西谷地区住民だけではなく、宝塚市の全市民に西谷地区の魅力などを伝えていただく機会となったと考えている。</p> <p>60周年で終わらせるのではなく、継続して西谷の魅力を発信いただくよう期待する。</p> <p>合併記念を契機として、住民の皆さんが地域の歴史に触れ、郷土への愛着を深めることができたのは、大きな成果であったと評価します。企画展の開催に際して集められた歴史的な資料をまちおこしに活用するなど、今後の活動の広がりに期待します。</p>